



アーカイブ 通信 No.29

No.29

2023.11.1

◆編集・発行：

ネットワーク・市民アーカイブ

事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

tel・fax：042-396-2430

E-mail：info@archive-tama.sakura.ne.jp

◆正会員1口6,000円、賛助会員1口3,000円/年

ゆうちょ銀行 振替口座00120-9-729226

口座名：市民アーカイブ ※団体会員2口～

市民アーカイブ多摩 開館9周年記念講演会 報告

公共空間 コモンスペースをつくる

市民アーカイブ多摩を軸に

お話：岡部明子さん

(東京大学・建築学)



2023年6月4日、当会総会
にあわせて記念講演会を開催。
市民アーカイブ多摩開館から9
年となり、小さな資料館で開館日
も限られている中、コロナ禍も
含め多くの方の来館がありまし
た。資料館であるとともに、時代
や地域・思考を超えて多様な人
と「共に生きる」コモンスペース
でもあるように感じ、これからど
のような資料館を作っていくの
かを考えたいと企画しました。

日本のみならず世界でもコモ
ンスペース作りに関わっている
わってきた岡部明子さんをお招
きし、お話しいただきました。

▼古民家とスラム

「市民アーカイブ多摩」があ
るグリーンサンクチュアリ悠
の庭とログハウスは、人の手
が控えめに入った緑に包まれ
ているところがいいですね。

私の現在の活動の過半が、
千葉県館山市の海辺にほど近
い「ゴンジロウ」という茅葺民
家を拠点としているのです

が、そこと重なって感じられ
ます。

私は、建築デザインがバツ
クグランドなのですが、現在
は新領域創成科学研究科社会
文化環境学専攻というところ
に所属しています。沿岸土木
や下水処理から社会学や考古
学まで、専門性の異なるいろ
んな先生たちがいますが、組
織としては十数人と小さいと
ころです。

幼少期をメキシコで過ご
し、日本という世界を外から
知り、日本の大学で建築を学
んだ後、スペインのバルセロ
ナに10年間いました。ヨー
ロッパで持続可能な都市を
目指す模索に触れた後、
1995年に帰国すると、
ヨーロッパから何が学べるの
かばかりを求められることに
むなしさをおぼえ、「地球環境
の未来は、途上国スラムの住
人たちが今後どのような生活
をするのかにかかっている」

という思いから、インドネシ
アや南米各地の住人たちと一
緒に建築実践する活動をして
きました。その傍ら、日本では
ゴンジロウの活動を通して地
域のお年寄りから学ぶ日々で
す。ですので、今の私は「古民
家とスラム」の人です。

▼意図して残すことの限界

「公共空間」あるいは「コモ
ンスペース」は、学生たちと私
が10年以上続けている古民家
とスラムの建築実践をしなが
ら、ずっと考え続けているこ
とです。でも公共空間を「市民
アーカイブ多摩を軸に」して
考えるのは初めてです。

市民アーカイブのことを
調べてみると、最も悩んでい
ることは、組織や施設の維持
管理の困難さと管理費用、運
営資金確保の難しさのよう
です。一見、図書館や資料館など
公的機関に移管できれば気が
楽になりそうですが、資金面
でも持続性の面でも実は当て
になりません。

第一に場所および資金面で
ですが、私のところの学生だっ
た大谷悠さんの博士研究の結
論は、「場所が確保され、資金
面でも安定的な運営が保障さ
れると、活動が停滞する」とい
うものでした。彼は空き家率
が40%におよぶライプツィヒ
(ドイツ)の疲弊した地区で空

き家を活用し、移民や難民の
居場所となる活動を自ら主宰
しながら、複数の類似の社会
的な活動を調査しています。

第二に、公的機関に委ね
ることの危うさがあります。

公的機関では、保存する理由
が説明可能で合意の得られる
ものを、意図して残します。文
化財のように価値が確立して
いるものは公的機関に委ねる
のが妥当といえるかもしれま
せんが、市民活動資料はそう
した性格のものではありません
。夥しい資料のなかから、い
ろんな偶然が重なってひよっ
こり見出され、当時の息づか
いの伝わる貴重な証言になる
ことがあるわけです。意図せ
ずして残っていたものが突然
価値を認められたりする。文
化人類学者のインゴルドは、
この両者の違いを「モニユメ
ント」と「マウンド」の例を用
いて論じています。人は意図
して残そうとしてモニユメン
トを築く一方、道ゆく人が小
石をひとつまたひとつ積み上
げてマウンドは大きくなって
いきます。マウンドのほうは
誰も持続性を求めていないの
に、場合によってはモニユメ
ントより残るかもしれないの
です。市民活動資料の多く
は、モニユメント的であるよ
りマウンド的な性格をもって
いるのではないかと想像しま

す。公的機関に移管すると、参照頻度など客観的基準であつさり処分されてしまう危険があります。

アーカイブに頭を抱えて誰もが考えるのが、デジタル化ではないかと思えます。すでにある資料をデジタル化するのはいうまでもなく意図した保存です。でも、ヒロシマアーカイブなどデジタルアーカイブでよく知られている渡邊英徳先生とお話していて、デジタル時代の今、クラウドに自動的に蓄積されている情報は、言葉や画像映像の巨大なマウンドであることに気づかされました。そうすると、現在進行中の市民活動のアーカイブはどうなっていくのか、考えさせられました。

▼「公共空間する」という動詞

「公共空間」を名詞だとすると、どのような空間がこのタイトルでイメージされているコメントスペースなのかを問うことになりませんが、私は「公共空間する」という動詞ととらえて考えてみたいと思います。行為としての「公共空間」です。

まず前提として、パブリック（公）もコモン（共）も、さらにはプライベート（私）も、状態を示しているという共通認識をもちましょう。つまり、同じ空間が、パブリックにもなればコモンにもなる。また、公的に整備



された施設や屋外の広場や街路であつても、私物化されてプライベートになることもあるし、個人住宅が開かれていて、パブリックになったりコモンになったりしていることもあります。物的な空間の性質によって、コモンやパブリックな状態になりやすいということはありますが、人および人びとの行為があつてコモンやパブリックの空間ができます。「公共空間する」行為は、共通の関心事をめぐって、それぞれ1人の人として自由に決めごとに関わる実践です。趣向も価値観も違う人たちが集うことになりまます。人が「公共空間する」とは、属性をまとうずして、ただ1人の人として居合わせることで、そこに居合わせた人たちと共通の関心事というテーブルを囲んで、自ずと決めごとに関わり、実践することです。このことをアーレントは「現われ」と言いました。「公共空間する」とは、大きなシステムに

頼らず、困りごとを自分たちでなんとかしようとする実践ともいえます。

1人の人として自由になるには、社会の歯車が精緻化し、効率優先の現代、支配的なシステムを逃れなければなりません。そうしてやってきた人たちに、閉じていない物理的な空間が求められているのであり、それがここで求めているコモンスペースではないでしょうか。人びとの「公共空間する」行為がつくるスペースです。

▼コロナ禍のゴンジロウ

このように人の行為が空間をパブリックにしたりコモンにしたりするという発想は、私の10年以上におよぶ実践を通して浮上してきたものでした。私は大学院で「公共空間論」を講義しているのですが、学生たちの多くが、建築実践プロジェクトに参加して、初めて「あつ、これが公共空間か。公共空間になつていく！」と実感すると言います。

建築実践プロジェクトを大切にしてきた当研究室にとって、コロナ禍は分岐点となりました。概して「オンライン授業ばかりだった学生たちは、人とのコミュニケーションが減り、自分自身で体験する経験も希薄」だったことの影響が後になって顕著になりました。

行政が関与している学生地

域活動は、すべてと言つていいほどコロナ禍で中断を余儀なくされましたが、ゴンジロウの活動は足止めされるどころか、むしろコロナ禍で濃密になりました。他大学に先駆けて東京大学は教育のフルオンライン化にシフトし、構成員のキャンパスへの入構も制限されるという徹底ぶりでした。県境をまたぐ移動をともなう実習も中止。「そうは言つても、居住地選択の自由はあるはず」と考えた学生たち有志はゴンジロウで共同生活し、オンラインで授業を受けるかわら、地域活動することになりました。2020年5〜6月には、19年の台風で倒壊した布良崎神社の神輿庫を伝統工法で再築しました。ついで、ゴンジロウのある塩見のバス停を裏山の木を用いてつくり、20年12月にできあがりました。

10年以上になる月1回の地元のみなさんとの協議会も休むことなく続け、地元のみなさんの集まりがコロナ禍で中止になるなか、地元の方同士にとつても直接会つて話し合う貴重な機会になったようです。茅刈りや屋根の葺替えも、いつもと変わりがありません。

23年度に、ゴンジロウを初めて訪れた学生が「3つの不在」と題したレポートを書いてくれました。不在なのは、リーダー、所有者、時間の3つ。事前情報な

くゴンジロウを訪れた学生が、現代の支配的なシステムから自由になった空間だと感じてくれたのです。

▼「外」の「公共空間」

コロナ禍を経験して、いざというときのために、ゴンジロウのような空間が大学の外にあることがいかに尊いかを思い知らされました。松村淳さんは著書『愛されるコモンズをつくる』のなかで「公的機関がコモンズとして提供してきた場所の多くが機能不全に陥っている一方で、個人が私有財産をコモンズ化している」と述べていますが、ゴンジロウは私的な空間だからこそ、ステイホームを守りながら「公共空間する」行為が可能だったのです。

大学というシステムの外にあるけれど、ほかでもない大学の学び合う空間です。それが「外」です。「外」を定義するなら、「支配的なシステムの外にあり、かつ、内と外の二元論から解放された領域」と言えます。「外」の「共通世界」をよりどころに、人びとが「公共空間する」「公共空間する」実践の束が、コモンスペースをつくるのです。

共通の困りごと、共通の成功／失敗体験が居合わせた人たちが囲むテーブル、つまり「共通世界」です。ゴンジロウの場合、それが老朽化した茅葺屋根だった

わけですが、市民アーカイブ多摩であれば、市民活動資料ということではないでしょうか。

(記・岡部)

【参加者との対話・質疑】

参加者：お話を伺うと、公共空間がアジール（そこに逃げ込んだ者は保護され、世俗的な権力も侵すことのできない聖域）の意味をもっていると感じた。

岡部：私は「日本における境界」というテーマで卒論を書いた。その結論は、周縁にみられるアジールが、網野善彦さんの言う「無縁」の空間であり、それが、西洋とは異なる日本の公共空間ではないかというものであった。ところがヨーロッパの都市も図式は一緒だった。バルセロナはかつての市壁、つまりアジール性を備えた周縁



が、現在の公共空間である目抜き通りになっていた。

参加者：公共空間で五日市憲法が作られたといえるが、パトロンがいて、個人の持ち出しで活動が維持されることが多かった。組織のリーダーがいたら、パトロンとどう折り合うか。

岡部：パトロンはお金を出すけど姿を見せず、何かに賭けている。希望を託している。パトロンとは別にリーダーがいる。どちらがいなくなっても活動は存続の危機に陥る。それに對して、近年の仮想通貨で注目を集めたブロックチェーンのしくみを活用した運営が大きな期待を集めている。それが、DAO（分散型自律組織）とよばれるもので、お金を出すパトロンだけでなく、誰もが出資してリスクを取って賭けに参加し、みんなで決めごとをしていくものだ。リーダーなき、管理なき管理と言いが、ほんとうにありうるのか。

一般的には、公共空間という物的な器があって、そこでの人の行為が活動になると考えるが、「公共空間する」という人の行為から発想してはどうか。それがタクティカルアーバニズムであり、欧米では人びとの「公共空間する」行為が公共空間をつくるというロジックだ。他方、日本のタクティカルアーバニズムは、公共空間を整備するのは行政という前提に立ち、行政とどう付き合うかの

レシビ集でしかない。…つながりうるのに、日本では別物になってしまっている。

参加者：中で何をやるかではなく、ただ集まるということにゴンジロウは重きを置いているように見える。

岡部：何か共通の関心があることが1つの実践につながっている。たとえばゴンジロウで雨漏りがあればそれを何とかしなければとなり、共通の困りごとを自分ごととして何とかしようとなる。ゴンジロウでは、困ったときにみんなで行くとかして、近所でも困ったことがあればなんとかする地域の工房のようなものにしたいて考えている。

参加者：仮に新しいものをつくるとき、まずデザインを作らなければと考えていたが、それはダメだと気づかされた。市民アーカイブだと資料をどうするか、困りごとをどうするかの視点が大事なのだと感じた。

岡部：いざというときに逃げ込めるのはどういう空間か。それはアジールのような場所、違った意見を持った人たちが一緒にテーブルにつけるような空間ではないだろうか。とはいえ公民館を使った議論とゴンジロウで行う議論は異なる。ゴンジロウではあくまで民家である。そこに土間を復活させて、雨天時など、屋外でなくとも議論のできる空間をつくった。また、炊き場も復活

させた。「食べる」という行為も結構大切だと思う。

参加者：何か作業をしようとした場合、ともに活動する人はどうすれば見つかるか。その仕組み、循環をどう生んだのか。

岡部：小さな成功体験が大事だ。屋根をつくる時、建設会社OBを呼んだが、安全対策などにうるさくて失敗してしまつた。結局I-T関連の方に協力してもらつたり、茅葺き職人を金沢から呼んだりしてつくることになった。本来茅葺き屋根は誰でも使えるものを集めてできるもの。茅葺きなんて9割の人が当初は反対していたけれど、まず一部実践してみたところ、面白いほどに人びとの意見が前向きに変わった。地元の大工さんがボランティアで茅刈りをしてくれたこともあった。確信をもってやることはどんなに反対されてもやるべき。

参加者：最初は同志が集まっても事業化すると制約も生まれてくる。NPOで他事業と連携はできるが、大きな報告は大変になる。

岡部：「外」の部分を取っておく必要があると思う。たとえばNPOはスリムにしておいて、もう1つ営利企業をつくるという方法もあるのではないか。かつアジール

的な「外」も守っていく。日本でやると許認可とか安全管理などがすぐ出るが、インドネシアのスラムのように、みんなが賭けをするという感覚が大事なのではないか。

参加者：アジール空間をつくりたいが、難しい。NPOをやっていることで、事業をやっている感覚に陥ってしまう。

岡部：お祭りをする時に「広場」はなくても、「広場化する」のはより普遍的なものであるはずだ。

参加者：NPO法人格をとるかどうか考えているが、その意味をどう捉えているか。

岡部：ゴンジロウは19年にNPO法人となった。活動を10年続けると安定を求めてしまいが、その場に立ってみると、それしか選択肢がないものだ。私たちの場合、法人化したことによつて、民間事業者と正式に連携した活動ができるというメリットが生まれた。

催しのご案内

開館10周年集会①

「市民アーカイブ多摩」 次のステップへ(仮)

2014年4月の開館から丸10年。この10年の蓄積(成果と反省)を共有しながら、次の10年に向けて新たなイメージ・目標を出し合います。

- ・2024年2月12日(月・休日) 13:30~16:30(開場13:15)
- ・会場：市民アーカイブ多摩(玉川上水駅徒歩8分・地図8頁)
- ・参加費：500円(会員無料)

第2回 5月27日

子ども食堂という「希望」

食・居場所から地域づくりへ

六鹿篤美さん(全国子ども食堂支援センター・むすびえ)



「子ども食堂」は現在、全国に7367箇所(2022年12月時点・下図参照)あります。17年



に日本で最初に子ども食堂というものができて、10年で全国にここまで広がっているのはなぜでしょうか。子ども食堂の意義や役割、可能性、子ども食堂が秘める「希望」について話してみたいと思います。

◆子ども専用「食堂」ではない

子ども食堂というイメージをお持ちでしょうか？ 貧困家庭の子どもたちに食事を提供する場所と思われがちですが、実は、子ども食堂は、子ども専用の食堂ではありません。

実際に、子ども食堂運営者へのアンケート(21年「第1回全国子ども食堂実態調査」むすびえ調べ)では、約80%が参加に条件を付けていませんし、60%で高齢者の参加があると回答しています。子ども食堂は、子どもはもちろん、高齢者から赤ちゃんまで、どんな職業の人も、障がいのある

◆多世代交流・共生の場

交流できる場所になっています。たとえば、子ども食堂ではこんな風景が広がっています。隣のおばちゃんが赤ちゃんを抱っこしてくれて、子どもを育てるお母さんが食事の支度・片付けをせずにゆっくりご飯が食べられたり、小さな子が地域のおじいちゃんおばあちゃんに昔遊びを教えてもらったり、小中学生が大学生のお姉ちゃんお兄ちゃんに宿題をみてもらったり、大きなお鍋で作ったカレーをみんなで「おいしいね」と顔を見合わせながら食べたりにしています。

ある子ども食堂は、外国ルーツのお母さんがその国の料理をふるまい、文化を紹介するイベントが開かれました。それを見

て娘さんは、今まで隠していた自分の外国ルーツの名前を、自信をもって同級生に打ち明けることができました。

ある市の職員が、1人暮らしの高齢者が増えている地域でサロンや食事サービスを始めようと思っても、「みつともない」と言った高齢者の方に来てもらえなかったのが、「地域の子どものために力を貸してほしい」とお願いし、子ども食堂を始めたところ、地域中の高齢者が食事作りや子どもの見守りなど、それぞれが役割をもって活躍してくれました。毎週子ども食堂に来るのが楽しい、生きがいだと言ってくれる方もいるそうです。これが「多世代交流」であり、こういう風景のある地域が「共生社会」なのだと思っています。

◆見えにくい貧困・体験の格差

子ども食堂で一番多い開催頻度は月に1回です。もし、子ども食堂が困窮により食べられない子のための食事提供のための場所なのだとしたら、回数としてはあまりにも少ないです。

日本の貧困は、「相対的貧困(※)」「見えない貧困」「体験の格差」とも言われています。衣食住は困っていないなくても、部活に入る余裕や習い事をする、修学旅行などに行くお金がないということがあります。また、「困っている子はおいで」の場所だったら、むしろ困っ

市民アーカイブ多摩の四季⑮ 晩秋 真弓

岸中書庫の前で秋の稔りを告げる真弓。実が赤くて美味しそう。ちよっとお味見……残念でした。

東アジアに広く分布する落葉低木。高さ5メートルを超えることもあり、材が緻密でしなやかであることから、古くから弓の材料として用いられ、この名があります。また、こうした性質を生かして将棋の駒、印鑑、櫛などを作るほか、漆を均等に混ぜるための籠に用いられます。果実は多数房状にまとまってつき、秋に色づいて裂け、中から朱赤色の仮種皮に包まれた種子がのぞきます。葉は紅葉して美しいですが、その葉が散ってからも果実が枝に



残り、晩秋の青空を背景に輝くのは見事です。同様の性質を持つニシキギは庭木に用いられ、山地に行けばツリバナに出会うことができます。切花としても用いられるツルウメモドキ、常緑のマサキなども同じニシキギ科の植物です。(邑田仁「元東大小石川植物園園長・NHK『らんまん』植物監修チーム」)

ている子は行けません。「誰でもおいで」の場所だからこそ、実は困っている黄色信号、赤信号けれど、みんなと同じ青信号の顔をして行けるのです。実際に、いろんな子が来る中に困窮の片鱗を見ることがあります。みんなと同じ青信号の顔をしていけるからこそ漏れる本音があるのです。貧困は経済的なものだけではなくありません、孤独・孤立も貧困の1つです。自己責任論の強い社会で「助けて」というのは簡単ではありません。

子どもたちには、地域には頼つてもいい大人がいるんだというところを知ってほしい、子ども食堂で様々な人と出会い経験をしたいと思っています。人との交流や、経験が心豊かに育てる。あの時こうしてよかった、こんなことができたという思い出が、大人になったとき背中を押してくれるのではないのでしょうか。(記・六鹿) ※その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態を指します。

ミニコミ紹介

市民アーカイブ多摩が所蔵する、団体や個人が発行する会報・通信(ミニコミ)を、発行者の方に紹介していただきます。

ハムケ通信

「ハムケ・共に」は、2009年に発足しました。朝鮮学校の子どもたちの学びを支援する活動のためです。きっかけは、在日朝鮮人の友人の話を聞いたことでした。

朝鮮学校は戦後、それまで自分の民族の言葉や文化を学ぶことが禁じられていた子どもたちのために在日朝鮮人が自らの力で建てたものです。日本政府は当初から朝鮮学校を認めず、公的な支援が全くない中で、自力で77年間運営してきました。けれども常に運営難に直面しています。私たちは税金を払っています。私たちは税金を払っています。元々ではないのです。

日本は朝鮮を植民地支配した歴史があるのに、反省もなく



子どもたちの声を届けたい!

「子どもたちの声」を届けてほしい! 「子どもたちの声」を届けてほしい!

「子どもたちの声」を届けてほしい! 「子どもたちの声」を届けてほしい!

「子どもたちの声」を届けてほしい! 「子どもたちの声」を届けてほしい!

- ・2010年創刊、年4回発行、500部、B5判、8頁
- ・ハムケ1口運動参加者と朝鮮学校保護者に送付
- ・tel: 090-7949-6594 (猪俣)
- ・当館所蔵: 17号(2014年) ~ 51号(2023年8月) 内容=都庁で行われた「都議会勉強会」に集まった都議に届けられた「子どもたちの声」やオモ二の声、朝鮮学校の行事や学校公開の予定など。

厚木基地を考える会 ニュース

『厚木基地を考える会 ニュース』の第1号は、1988年4月に発行され、その発行をもって会の発足としています。

当時、厚木基地で行われていた空母艦載機の離着陸訓練を三宅島に移転させるという国の方針が出されたのを機に、地元大和市の市議会議員が、三宅島に「基地押しつけツアー」を

復活させるための活動をしています。21年に成立した「東京都でも基本条例」を学びながら、多摩地域の朝鮮学校を支援するネットワーク・ウリの会や、全都の朝鮮学校を支援する団体により、都議に働きかける「都議会勉強会」実行委員会を立ち上げ、運動を進めています。地域の連続学習会も続けています。「子どもたちの声」を都知事や都議会に届け、都の補助金を復活させたいと思っています。



墮落はクラッチ不具合が原因

2023年6月14日発行のニュースに掲載された記事の抜粋です。

7月21日、米海軍は、昨年6月に起きたオモ二の汚染事故の原因を公表しました。この事故は、米海軍のF-35戦闘機が、オモ二のA基地に着陸した際に発生したとされています。事故の原因は、機体のクラッチ機構の不具合によるものとされています。

この事故は、オモ二の環境汚染問題に新たな注目を集めています。オモ二のA基地は、PFAS汚染のホットスポットとされています。この事故は、オモ二の環境汚染問題に新たな注目を集めています。

行います。そんな恥ずかしいことはさせられないと、何人かが呼びかけ人になって会を立ち上げたのです。

- ・1988年創刊、年4〜5回発行、100部、B5判、4〜8頁。
- ・年会費: 1,500円
- ・tel: 090-9143-9871 / E-mail: macoyan@com.home.ne.jp
- ・当館所蔵: 184号(2010年) ~ 300号 内容=米軍基地を由来とする有機フッ素化合物(PFASなど)汚染の問題を取り扱った映画「命ぬ水」上映会と制作者の講演の報告など。



国立国会図書館

見上げると真夏のまばゆい光が建物の地下8階の吹き抜けまで差し込んで来ている。「ここだけは写真が撮れます。どうぞ！」と声をかけられた(写真上)。

今回の目玉は、普段は立ち入ることが出来ないバックヤード(書庫)が見られることである。バックヤードでは、思わぬ出会いに恵まれる。その「現場」の力を体感したのが、昨年の同企画の「東日本震災・原子力災害伝承館」でのことだ。案内

記憶と記録の場をめぐる旅 ⑰ NPOの法人猪飼野セツパラム文庫 —「みんなのまちの人権図書館」を目指して

□猪飼野という街とともに

近鉄大阪線・奈良線で鶴橋から1駅の今里駅から歩いて5分ほど、新今里公園に面した建物1階に猪飼野セツパラム文庫がある。

猪飼野は戦前戦後、東成区・生野区にまたがった地域の地名で、在日朝鮮人の集住地域として知られた。しかし、

1973年に町名改正で地名

が無くなり、また、80〜90年代にあった「猪飼野朝鮮図書資料室」「学林図書室」「青丘文化ホール」など専門図書館等が、様々な事情で今は無くなっている(同文庫紹介による)。そんな状況の中、同文庫は、在日朝鮮人をめぐる研究や運動に80年代末から関わってきた藤井幸之

助さん(写真下)が長く収集してきた朝鮮・韓国関係や民族団体・民族学校・運動団体関連・行政外国人施策、民族まつり/マダン関連などの書籍・雑誌・チラシ、音声・映像資料、モノ等を所蔵・公開している。

□文庫兼研究・交流の場

2023年9月にリニューアルオープンした文庫は、かつて写真館だった建物の1階を活用した居心地のよい空間となっている。かつてスタジオだった部屋の壁は書架で覆い尽くされ、膨大な数の書籍・雑誌類が収められている。集会所スペースでは、「コリアン・マインリティ研究会」の月例会が毎月開催されている。奥には交流に使える中庭もある。

文庫が現在の形になるまでは、変遷があった。10年に藤井さんの自宅のある大阪市東淀川区で前身の文庫が開設された。その後、15年に猪飼野にも近い天王寺区細工谷に移転し、「猪飼野セツパラム文庫」と改称。セツパラムは朝鮮語で「東風」を意味し、「新しい風」の意味もあるという。23年3月に現在地(新今里)へ移転し、多くの仲間・ボランティアの手で整理が進められてきた。

□ネットワークに支えられて

筆者がお訪ねした7月上旬の土曜午後も次から次へと訪問者があり、にぎやかに手伝っていく様子が印象的だった。

藤井さんによると、現在の物件を知ったのは、近所のクリニクに置かせてもらったチラシを見た地元の人が寄せてくれた情報がきっかけであった。そのチラシを置いてくれた人も、地元の公共施設に置いたチラシがきっかけで手伝うようになったという。在日・日本人を越える地元ネットワークの広がりと厚み、この地道な活動を支えている。

とはいえ、運営は容易ではないという。21年秋にNPO法人となり、組織的基盤は固まったが、賃料支出を含め安定的な運営を続けるための課題は多



猪飼野セツパラム文庫

・所在地：大阪市生野区新今里 2-9-16
・電話：090-9882-1663
・アクセス：近鉄大阪線・奈良線今里駅徒歩5分、地下鉄今里駅徒歩10分
・開館：土日 11:00～18:00 (要連絡)

◆生きている街の一部として

近鉄今里駅から文庫に至る街並みには、ベトナム系住民のお店や施設が目につく。文庫から徒歩10分強の御幸通商店街は、いまは「大阪コリアタウン」として多くの若者を集める観光地になっている(ここには23年4月、大阪コリアタウン歴史資料館も誕生した)。街はいまも生きている。猪飼野セツパラム文庫がこの街の一部としてどんな挑戦をしていくか。市民アーカイブ多摩としても大いに学ばせていただきたいと思う。

(町村敬志 運営委員)

役の学芸員から、私たちは「おもて」では語りにくい館の現状や諸課題について、まさに裏話を聞いた。今回は、どんな出会いがあるのだろうか？

結論から言えば、その日私の目をもっとも惹いたのは、冒頭で記した白壁に囲まれた地下のバックヤードから見上げた太陽光の眩しさであったと言っては言葉が過ぎるだろうか。

国会図書館内にいる限り、書庫だろうと、閲覧室だろうと、私たちは自然光とは無縁な世界に置かれる(もしくは浸れる)。外界から完全に遮断されたところで成立しているのが、日本最大のアーカイブズ国立国会図書館であり、その機能は「図書館」を突き詰めたものと言えるのか

リレーエッセイ

〈市民アーカイブ多摩のひとつ〉⑤

市民活動との再会

そして私の思い出



吉田 明
資料整理
ボランティア

神奈川県立高校での教員生活を終えた後、私は1年間、町田市立自由民権資料館で資

もしれない。そして、この館の名前に「国会」という、いかめしい場所の名前が付けられているところに、この〈現場〉の本質が端的な形で表現されているようにも思う。

当日のツアー内容についても少し跡づけていこう。本館南口に集合した私たちは別室に案内されたのち、書庫に入るのに必要な靴カバーや首から下げたあと、前後に係員が1人ずつ付く形で出発した。巡った順に並べれば、本館入口↓人文総合情報室↓第一閲覧室↓複写カウンター↓ギャラリー前の建物模型を経て新館へ。吹き抜けの壁画、雑誌カウンター横の通路、そしてバックヤードへ。ここか

料整理に当たりました。資料館には各地の資料館や市民団体の発行する数多くの「ミニコミ」が届くので、これらを整理するのも私の仕事でした。こうした「ミニコミ」を通じて企画展などの情報を得、各地の資料館巡りをするのが新しい趣味になりました。

そんな中『アーカイブ通信』では多摩地域を中心に各種の市民活動の様子や活動に参加する人々の声を聞くことができ、就職のかたわら私が参加したり利

らが普段は立ち入れないゾーンである。そしてエレベーターで地下8階に降り、案内されたのが、先述の撮影可能スペースである。吹き抜けから書庫内に入り、新聞・雑誌架では一例として明治時代(西南戦争時)の新聞が紹介された。続いて今回の目的ともいえる市民活動資料／ミニコミ類が多く収蔵されている棚へと導かれた。そこで職員さんがたまたま取り上げたのが、『市民活動のひろば』であった。国会図書館に、たしかに所蔵されていることが確認され、製本されているものをみた瞬間、その発行に携わる、運営委員でもある江頭晃子さんから歓声が上がった。それはこの見学ツアーのクライマックスと言つていい

用したりしてきた類似の市民団体やその「ミニコミ」にふたたび出合うことになりました。

たとえば、市民活動を利用した私の教育活動のひとつに、沖縄修学旅行があげられます。定番の「ひめゆり平和祈念資料館」や摩文仁の「平和祈念公園」だけでなく、何よりも沖縄戦の悲劇が集約されているガマ(壕)⇨鍾乳洞に生徒を入れることを計画しました。ガマは日本兵による沖縄住民への脅迫・差別・殺害など沖縄戦

瞬間だったと思う。

しかし、あえて言うならば、その瞬間は市民アーカイブ多摩と国立国会図書館という2者がかろうじて交わった1点だったのではないか。これまで書いてきたように、国会図書館は、すべての面で高度に管理された機関／空間である。それに比べて、市民アーカイブ多摩は非常に自由な運動体である。その性格の違いは同じバックヤードでの可能性を比較したとき如実に表れるだろう。

市民アーカイブ多摩の書庫内で、私たちは自由に動き回り、資料に触れ、さらには資料を手にとって、周りさえ許せば声に出して読むことだって出来る。むしろ、どこからがバックヤード

の悲劇の現場で、戦時と同じ暗闇の中でボランティアガイドの方の解説を聞くことが出来るからです。しかし、ガマは地元の人にとって神聖な場であるとともに、途中私有地を通ること、一度に多人数が入れないなど、団体旅行にとつては制約も多いのです。私は「沖縄平和ネットワーク」や「読谷ガイド・風の会」などの市民団体と連携をとり、何度も調整をして実現にこぎつけました。クラスごとに別々の

で、どこからが閲覧室なのか、その境界すら厳格に定められていない。ましてや太陽の光？四季を感じられるところこそ、市民アーカイブ多摩を訪れる人が、もっとも感動と充実感を得るところではないか。

アーカイブズの目的が根源的に異なるゆえの建物の構造や利用方法の違い。それは昨今市民アーカイブの運営委員会でも議論に上っている活用という次元を考えたとき、さらに思考の地平は拡がるだろう。その日持ち帰った「利用案内」には「当館は：国民共有の文化的資産として：100年後の人も利用できるように」と記されてあった。2123年の国会図書館を見てみたい。(高原太一⇨運営委員)

ガマに入るローテーションを考え、解説をしてくださるボランティアガイドの方と、出発前夜まで調整を続けたことを懐かしく思い出します。

私はつい最近まで、市民アーカイブ多摩の存在を知らませんでした。教員時代から活用してきた市民活動への関心と資料館巡りという新しい趣味。この巡りあわせが、私を玉川上水にあるこの資料館へと誘ってくれました。(よしだ・あきら⇨会員)

アーカイブ多摩 目録

◆法政大学環境アーカイブズと目録連携に向けて

市民アーカイブ多摩が保存運動をしていた2002年以前の資料は、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズに寄贈しているため、同じミニコミタイトルでも、発行年によつては2館に分かれて所蔵されています。新たな目録作成にあたって両館の連携が可能な話し合いのため8月に訪問しました。まずは、環境アーカイブズがHP上で提供している目録を同一タイトルで集めて公開することを提案・お願いしました。

◆3館合同シンポジウム

市民活動資料を収集している3館合同の初めてのシンポジウムを開催します(下記)。ぜひご参加ください。

◆秋の樹林開放日

当館を含む緑地を保全をしているNPO法人グリーンサンクチュアリ悠の樹林開放日が開催されます。歌・カフェ・ミニフリーマーケットもあり。紅葉を楽しむにいらしてください。

・12月3日(日) 10~12時(市民アーカイブ多摩地図参照)

◆年末・年始休館日

12月27日(水)、1月3日(水)は休館します。年末最後は12月23日(新年は1月10日)からです。

「市民活動資料」収集・整理・活用の現場から

- ・法政大学大原社会問題研究所 環境アーカイブズ
- ・立教大学共生社会研究センター 市民アーカイブ多摩
- ・11月18日(土) 13:30~16:30
- ・会場：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲートG501教室 (市ヶ谷駅徒歩10分)
- ・申込不要 ・参加費無料

運営委員会など

- 6月5日 2023年度総会(参加者12人)、記念講演会(参加者22人)
- 6月16日 第3回運営委員会、参加者5人。会員カンパ者、当番予定、来館者各部会から報告(以下毎回)。総会・記念講演会感想・反省、通信検討、法政大学との目録連携、3館合同企画他。
- 6月24日 第3回緑陰トーク開催(話し手：中井万知子さん)。参加者14人。
- 7月18日 第4回運営委員会、参加者8人。23年活動内容と代表・部会担当。法政との連携、3館合同企画、国会図書館訪問、GS悠理事会、通信企画他。
- 7月25日 国会図書館訪問参加者13人
- 8月7日 法政大学環境アーカイブズ訪問・目録の連携について(参加者4人)
- 8月22日 第5回運営委員会、参加者7人。法政大学報告、3館合同企画、長期計画提案、部会メンバー・検討事項等決定、緑陰トーク分担、通信確認他。
- 9月12日 第6回運営委員会、参加者5人。3館合同企画、GS悠理事会への依頼、次年度緑陰・総会講師案他。
- 9月23日 第4回緑陰トーク開催(話し手：松崎稔さん)。参加者26人。

会員数(2023年9月)

- 176(正会員65人 賛助会員105人・6団体)
- ◆新規入会ありがとう(正会員) 川上和子さん(賛助会員) 飯塚彬さん 澁谷朋恵さん 永瀬里子さん 現代女性文化研究所

カンパありがとう

- (2023年6~9月)
- 奥田さが子さん 島 京子さん 麓 常夫さん 堀越比菜子さん 町村敬志さん 渡邊康弘さん 匿名2人

会員の声

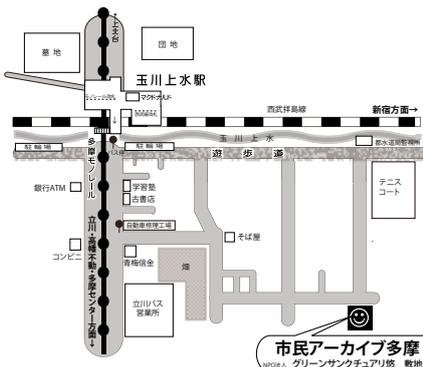
・成田闘争の関係史料を保存する「成田空港 空と大地の歴史館」に関わっていますが、70年代のチラシや貴重な資料にカビ等のダメージがでてきており苦慮しています。多摩住民自治研究所で教育研究会を開催しています。多摩地域自治体の教育行政財政について学び合い、議論を重ねていますので、参加を呼びかけます。

・子ども家庭庁発足は嬉しいのですが、なぜ「家庭」が挿入されたのか、私はひっかかる。当事者の方々は「子ども庁」と言っていたのに。アーカイブ通信など、いつもありがとうございます。活動の様子を伺い、励まされています。

・国会図書館見学、懐かしい。高校時代、女性史を調べに国会図書館に毎週訪問していました。

編集後記

緑に囲まれて暑さに強い市民アーカイブ多摩ですが、さすがに今年は耐えられず。汗まみれの日々でした。久しぶりの入院だけが「高原の別荘」状態でしたけれど。(増・佐・江・鈴)



市民アーカイブ多摩利用案内

- ・開館日：毎週水曜日、第2・4土曜日(年末年始・8月中旬休館有)
- ・開館時間：午後1時~4時 ・入館カンパ：100円~
- ・所在地：〒190-0002 東京都立川市幸町5-9-6-7 (多摩モノレール、西武拝島線「玉川上水駅」南口徒歩8分)
- ・tel・fax：042-536-5535 (電話は開館中のみ)
- ・見られる資料：市民団体や個人が発行するミニコミ(通信や会報等)
- ◆会員・カンパ募集中 ~市民の活動を過去・現在・未来についでください~
- ・正会員1口6,000円/年 ・賛助会員1口3,000円/年 ※団体会員2口~
- ゆうちょ銀行 振替口座00120-9-729226 口座名：市民アーカイブ
- ※他銀行から ○一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0729226